

平成29年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
専門学校静岡電子情報カレッジ
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施し、まとめた平成30年3月8日付「平成29年度 自己点検・評価報告書」を元に、学校関係者評価を行いました。

なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

平成29年度学校関係者評価委員及び事務局

<企業人>

池谷 和彦 SSBソリューション株式会社 専務取締役
磯田 弘 有限会社ランドスケープ 代表取締役
齋藤 弘幸 株式会社コサウエル 代表取締役社長

<卒業生>

知又 史郎 静岡情報処理センター株式会社 医療ソリューション事業部 システム部
櫻井 幸寿 株式会社富士データシステム 開発部開発課 課長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長
有賀 浩 教頭・教育部長 ロボット創造学科・ゲーム応用学科長
中村 健太郎 教育改革推進室長代理 ロボット創造学科・ゲーム応用学科担任
五味 正太郎 映像・音響デザイン学科 担任

1. 教育理念・目標

【現状と問題点】

- ・建学の精神を根本の理念とし、挨拶を基調とした全人教育を徹底。現代倫理科目においては昨年の反省に基づき、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークをブラッシュアップして行い、教育の成果を高めることができた。
- ・第4次産業革命、インダストリー4.0、ソサエティー5.0時代を指向し、地域産業のニーズに即した人材を養成している。
- ・全ての学生に「笑顔」で明るい挨拶ができるよう、学生指導を徹底した。多くの来客からその挨拶を高評価して頂いている。また学内全体が一段と活気づいている。
- ・入学前事前指導（ステップアップレッスン）、新入生オリエンテーションを通して早い時期から教育方針・学ぶ内容の理解を促すことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・他でもない自分のために環境を整えること。そのための清掃であることを理解させた。 ・異分野・他部署の教員と連携した研究開発活動が行えた。(ゲーム開発分野と子ども心理、映像デザイン・ウェブデザイン分野と企画広報、等)
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・教室配置の変更が完了。姉妹校静岡福祉医療専門学校の福祉・医療・子ども分野で学ぶ学生との関わりがしやすくなった。分野を横断するコラボレイトを進める。 ・視能訓練士養成科との連携では「画像処理、画像制作」をポイントに、当該分野専門の教員と情報交換し連携を図る。 ・関連分野の企業や団体とタグを一層強化し、専門的知識・技術+社会人基礎力を備えた即戦力となる人材育成を目指す。 ・引き続き文部科学省委託事業に参画し、中核的人材育成についても体制を強化する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・開校以来 30 年余を経過してなお教育の理念を貫き通されていることに敬意を表すとともに、貴校の卒業生を継続して採用したい。 ・挨拶ができる学生を育成する専門学校として、地域でも評判が高い。引き続き期待申し上げる。 ・アクティブラーニングを更に推進してほしい。実務の世界で最も役立つ経験だ。その中でディスカッションする機会を増やしてほしい。日々行うことが大事。 ・採用面接においては研修内容、学びの内容を問うことが多い。自ら調べる、先輩に尋ねる等、自発的に行動できる力を身につけてほしい。 ・実践的な力の養成は特に専門学校に期待するところが大きい。 ・仕事の現場ではとにかくコミュニケーション。なので、学生時代の学内外における活動は多いほどよい。 ・自分の意見を言う機会を増やすとともに、笑顔で話せることを身につけたい。 ・学生たちが学ぶ環境を自ら掃除・整理することは大切にしてほしい。 ・上司・先輩、同輩の言葉に共感できる人間性の涵養を。 ・文科省委託事業への参画においては、担当教員が「様式」を見る経験になることもプラスにつながる。 ・貴校の特色でもある異分野のコラボレーションにも注力されたい。電子カルテ、介護・医療と IT の連携等。 ・視野が広い学生が強い。アンテナを高くして広く情報収集を。企業においても必要となる介護・医療分野の知識は自力で勉強している。
2. 教育活動	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングが定着し、それぞれの教科にふんだんに取り入れている。学生の勉学やグループワーク、開発制作活動等に対する積極性の向上、コミュニケーション能力の向上がみられる。 ・教育課程編成委員会を年度内 2 回実施。各業界の動向に合わせて、学科・コース別に教育課程へのアドバイスを頂き、教育活動全般に反映することができた。 ・カリキュラム・シラバス・講師派遣等の面では、今年度も引き続き各分野の企業からバックアップしていただいたため、より実践的な授業内容となり、学生も熱心に取組むことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・職業とキャリア、社会人常識マナー検定に対する指導を強化。また、当該検定を受験させ、学習成果を確認、学生の職業キャリア意識と社会常識力向上を目指した。 ・産学連携教育プログラムの強化、連携先を増やし、学生にとっては経験値を高める絶好の機会となった。反面、連携先の都合により時間を割かなければならない場面が増え、業務が繁忙することがあった。 ・コマシラバス、教材についての電子化を引き続き推進。過去の教材もそのまま蓄積され、学生が課外で活用するなど、メリットが増えている。 ・課題であった組込み系などの産学連携先を膨らめることができた。また初めて参加できたイベントも増えた。 ・1年次ではグループワークを頻繁に行い、「チームワークで何かをまとめる力」を養成できた。 ・IoT 総合技術展・ET ロボコン（パシフィコ横浜）、国際ロボット展（東京ビッグサイト）等、県外で行われた大規模なイベントを見学。最先端の技術はもちろんのこと、学生レベルで理解・活用できる情報も得られ、学生グループの研究開発活動に活用することができた。 ・昨年度できなかった文部科学省委託事業の一環としてのイベントに学生が参加。ゲームコンテストへチャレンジをし、見事企業賞を頂いた。また学生のプレゼンテーションに対して、ゲーム関連企業のプロの方から直接作品に対して評価をして頂くことができ、良い刺激になった。 ・授業の問題点に対する課題提案や改善につなげるために、前期・後期終了後（計2回）に授業アンケートを実施した。その結果に基づき、教員個々で授業点検・評価・改善を実施した。その結果をまだ十分反映させるところまで行えていない。 ・プロゼミ、ゼミナール科目において、企業人の指導を導入。調査・分析から企画、スケジューリングの手法、PDCA サイクルの経験を積むことができた。 ・学年・学科・コースを超越したコラボレーションに加え、教育部外のスタッフとの連携、姉妹校静岡福祉医療専門学校とのコラボレーションで、本学ならではの研究開発・制作活動が行えた。またその成果は地元企業人からも高く評価して頂くことができた。 ・地元企業人を招いて卒業研究・ゼミナール成果発表会を開催。2年生は学びの集大成として、1年生はゼミナール活動の成果発表として取り組み、プロの方々から何れも高い評価を頂くことができた。 ・文化祭における公開講座では映像分野の先端で活躍する卒業生を招聘。仕事の魅力を存分に在校生に伝えてもらうことができた。また当該分野を希望する学生と交流もしてもらえた。 ・18歳から選挙権が与えられるようになったことを踏まえ、学生に選挙や政治についての関心を持たせるための授業を行った。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるコラボレーション研究・制作活動が一過性のものとならないためにも、その目的・内容や成果を次の年度の学生たちに伝達・理解させ、継続的に活動させる。 ・学生一人一人に対するキャリア指導を強化し、脱落することを防止する。 ・SNS では学生が見落とすこともあること、企業においてグループウェア活用スキルも求められることから、グループウェアの導入を研究する。要件の期限を一覧で確認できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地元組込み系企業と連携し、ET ロボコン等に挑戦し、身につけた技術力がどのレベルにあるのかを知る。そこからまた新たな課題を見つけ、取り組ませる。 ・モデリングについては企業と情報交換を行ったが、まだ具体的に教育内容に反映できていない。シラバスに反映させたい。 ・3D プリンター、3D モデリング技術修得が大きく進み、学内におけるロボット開発のシーンが大きく変わった。このことを受け、従来のカリキュラム、シラバスについても大幅に改訂する。 ・文部科学省委託事業のイベント等、学生が大きく成長できる機会に積極的に参加する。 ・当該分野で活躍する卒業生との連携を深める。学生も含めての共同研究、卒業生の企業活動支援、会場提供等を行う。 ・一段と変化の激しい当該業界で働くにあたり、「自信を持って」「自ら考え行動でき」「障壁を自力で乗り越えていく」力の養成に注力する。そのためにキャリア教育を基軸とした新たなカリキュラムの導入、職業教育・キャリア教育財団によるテキスト「未来ノート」の活用も含め、研究を進める。 ・新たな産学連携先を開拓する。 ・映像系におけるアニメ制作分野のカリキュラムを改編する（当該分野の関係企業人との情報交換を既に実施。）
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の何が得意なのか、何が苦手なのかを自分で理解すること。自己 PR など、自分の表現方法を身につけたい。 ・学外の展示会等に出かけることは大変良い。最先端を学ぶ機会になる。 ・学外の活動については「感想文」よりも「報告書」形式で残すこと。企業においても出張報告、議事録、業務の記録を残すことが重要で、その力を学生のうちから養成したい。またその重要性を理解したい。 ・課題をこなすだけでなく、任されたこと以外に気づき、行動できるようにしたい。 ・企業においてはグループウェアで進捗管理、期限管理を行っている。要件を細分化して管理できるようにしたい。 ・所謂「できない学生」については、何か一つ自信を持たせたい。それを軸にしての成長を期待する。
<p>3. 学生受入れ</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度後半のオープンキャンパス参加者が例年よりかなり増加した。中でも音響分野に興味を持つ参加者が目立つ。また参加者同士が連携する様子も多々見られ、そこにコミュニティーが誕生している。 ・音響系を希望する入学生が大幅に増えた。反面、システム系の希望者はやや減少している。 ・コミュニケーション能力の極めて高い学生のサポートもあり、在校生と入学希望者とが打ち解け、談笑するシーンも多くみられた。 ・学科紹介やオープンキャンパスの「のぼり」を学生がデザイン・制作し、各校舎のホールに設置。広報的な効果を高めている。 ・公益社団法人 静岡県職業教育振興会主催による一般人向け職業体験イベントに参画。本学のシステム分野、音響分野の仕事について体験・理解を深めて頂くことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校への出張授業を実施。映像・音響分野に興味のある生徒を対象に、当該分野の仕事説明、グループワークによるアニメーション制作実習を実施。参加生徒が積極的に取り組み、効果の高い授業となった。 ・高校生 ICT カンファレンスを開催。4つの高等学校から30名の生徒が参加。総務省、SNS 事業者、メディアリテラシー研究団体も参画してグループワーク、プレゼンテーションを行った。 ・留学生をスムーズに受け入れるため、担当教員が外部研修に参加した。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の改編を計画する。 システム系については以下に示す3つの観点から1学科3専攻に再編。 ① 学科名で IT 各分野を網羅させ、「IT の総合的な学科」のイメージで他校との差異化を図る。 ② 3つの専攻により、学生個々に合った授業選択が可能となる。第4次産業革命が進行する現在、IT 分野におけるモノづくりのあらゆる面で多彩なスキルが求められている。その状況に対応できる人材育成にはカリキュラム選択も多様化しなければならない。 ③ プログラミング等、ゲームとロボット共通の授業が行えるため、人的資源・施設設備が効率的に活用できる。 音響、映像系については学科名称の変更と2専攻に再編。 ① 音響分野が学べる県内唯一の高等教育機関であることを一段と強くアピールし差異化を図る。 ② 2つの専攻により、学生個々に合った授業選択が可能となる。 ③ エンターテイメント、クリエイティブ分野の多種多様な職種に対応した授業選択が行える。 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス体験授業への参加回数の多い生徒が増えてきていることを踏まえ、体験授業ポートフォリオを持たせ、体験を一過性のこととせず、記録として残し、入学後にも役立つようにしたい。 ・高等学校等への出前授業について、内容のバージョンアップ、種類を増やし、ニーズに応える。 ・平成30年度も高校生 ICT カンファレンスを誘致する。 ・小中学生向け講座の企画と実施（企業連携）地域貢献により本学の教育内容を発信する。 ・オフィシャルサイトの内容充実を図る。 ・企業研修等を誘致する。 ・業界企業から注目されるよう、教育内容の高度化、充実を図る。 ・技術営業職、フィールドエンジニア職について求人があるので、コミュニケーション能力に長けた学生をインターンシップ体験させるなど、この職種についても就職活動を活発化させる。 ・新たに近隣に建造されるライブハウスとの連携を進める。学生の現場実習の機会増に結び付けたい。 ・学力の低い学生に対する指導が課題となっている。従来の個別指導だけでなく、その学生が一つでも自信を持てるような教授方法も研究する。

<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の面白さ、ものづくりの楽しさが身につけられている。 ・エラーを見つけることの楽しさ、トラブルへの対処・熱中することも実習を通して教え込みたい。 ・面白さの見せ方は難しい。魅力の見せ方に産学連携教育の場を活用したい。 ・学んでいく中で、目標・夢・なりたいものが不明瞭にならないようにしたい。目標が明確な学生にはしっかり学ばせ、そうでなければいろいろなものを触らせ、興味を引き出す。 ・舞台照明、舞台機構、映像関係と、どれも仕事が多様化している。制作現場に対応した実習内容としたい。 ・第4次産業革命など、大きく変化・多様化するITの世界のそれぞれをしっかりと見せる、教えること。スケールの大きい仕事があること、その魅力を伝えることも大切。 ・視野を広げるため、学生に対する情報開示・共有の徹底を。
<p>4. 教職員組織</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子情報・福祉医療2校の連携を密に、各学科長と連携し、教務的な内容に加え、異分野の交流によるコラボレイトを進展することができた。 ・新たに非常勤講師を招き、エンターテイメント系、DTM分野について教育内容を刷新でき、学生のスキルが大幅に向上した。 ・専任教員について、企業との連携による研修の機会をもった。イベント現場やレコーディングスタジオ、プロのクリエイター指導の下での先端映像制作技術修得など、本学の技術教育について効果の高い研修とすることができた。 ・静岡情報産業協会との連携により、地元IT企業の人材ニーズや業界のトピックスを得ることができた。 ・専門的技術並びに教育力向上について、教員研修の機会を増やした。またその政界については学内研修にて情報共有し、教員のレベル向上を図った。 ・文部科学省委託事業に参画したことで、ゲーム開発関連のイベントに学生を参加させることができ、多くの成果を挙げられた。また教員においては関連企業や同系列の専門学校との情報交換が行え、教育内容や教材に活用している。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力、専門性の両面について、各学科の特性に合わせ、計画性をもった研修計画と実施、そのまとめと学内での情報共有を行う。 ・文部科学大臣認定の職業実践専門課程としての責務を負い、また専門職大学・専門職短期大学も視野に入れながら、地域のニーズに合致し、より良い職業教育が行えるよう、教員組織に配慮、教員自身も関連企業・施設・病院等と連携することで、教員自ら現場の状況を把握する。 ・文科省委託事業の関連でクリエイタートライアウトやCCS2018に引き続き参加する。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業界のニーズと教育内容の合致が重要だが、業界で何が求められているのか、卒業生からも情報を得ることが重要。学生時代のイメージと実務との違い、具体的なニーズを訊く。 ・時期によってはインターンシップなどの連携が難しいこともあるが、母校への卒業生派遣なら可能。 ・外部講師を増やしたのは良い。学生にとっては多様な機会を通して職業のイメージが明確化できる機会になる。費用的に厳しければ単発の講座でも十分効果があ

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が現場を見る機会を増やしてほしい。更に国、団体の会議なども公開されているので傍聴し、その動きを知ることも大切。 ・ビッグデータの分析、アルゴリズム、考え方などは大学で研究しているスタッフの得意なところ。交流してみてもいい。
5. 施設・設備等	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンターを本格的に稼働。活用方法を進展させ、ロボット開発におけるパーツ製作等、3DCGモデリング、データ作成について研究を深めることができた。 ・企業から提供を受けたデジタルオシロスコープを授業に導入。センサーの学生の研究開発活動に高い成果を見ることができた。 ・音響・映像系の学生像を踏まえ、音響設備を増強した。また教室移動に伴い、サテライト教室に当初設置していたアンプを移設、有効活用している。 ・専門雑誌を整備、学生が日頃から手にして最新情報に触れられている。 ・舞台照明の基本装置を導入した。 ・デジタル一眼レフカメラによる動画撮影が行えるようになった。レンズ交換により画角が変えられるようになったこと、画像品質が向上できた。 ・サーバ、プリンター、PC等に割り当てている固定IPアドレス資源を整理して振り直し、DHCPで割り当てることのできる連続したIPアドレスの範囲を十分に用意した。 ・ネットワークサービスの検討、VPN導入研究等には手が回らなかった。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・現在南町キャンパスで利用している学内インターネット接続サービスのコストが高いため、他のサービス等への切り替えを検討する。 ・森下町キャンパス、南町キャンパス間のVPN接続を研究・導入を実現し、現在利用中のクラウドサービスよりセキュリティ面を強化する。 ・舞台照明の周辺機器を整備する。実習授業はもちろんのこと、オープンキャンパスにおける体験授業でも活用する。 ・書籍等の保管庫を導入したい。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・企業においても印象アップのための工夫等をしており、良い意味での違いを感じてもらおう設備投資をしている。学校でも取り入れてみては。 ・機材を大切にすることを促す。 ・システム設計・開発の現場において、セキュリティ維持のためネットワークの利用状況を監視・傍受を行っている。顔認証なども含めて、学内で応用できるものがあれば研究してほしい。 ・音響の世界もTCP/IP化が進み、ホール内にもLANポートが敷設されている。またIoTの普及により、各種センサーからビッグデータを集めて処理したり、ウェアラブルコンピューティングを利用したり、徐々に普及し始めている今どきのシステム連携を学生にも見せたい。
6. 学生生活支援	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に個人面談を行うことで、学業や学生生活上の悩みを早めに察知できるようにした。また長期休暇前後には学生の生活面、健康面のチェックを行い、全校的に状況の取りまとめ、把握をしている。 ・感染症（インフルエンザ）を発症した学生には学生の手引きに沿った的確な対応

	<p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学独自の奨学金制度について、制度内容やそのシステム等、学生募集の段階から紹介するとともに、入学後も対象となる学生には引き続き指導している。また日本学生支援機構等、公的な奨学金制度については専任を設け、入学後速やかに希望学生を対象に説明会を実施。進級・卒業後も適切な指導を行い、スムーズに手続きが進められるようにしている。 ・24時間対応保険及び正課中を対象とした保険に加入して、万が一の場合に対処可能としている。 ・年に1度、健康診断を実施。 ・関連業種のアルバイト情報等を学生に伝えている。 ・転科を希望した学生についての確かな指導が行え、転出先の学科で日々充実した学習が行えている。 ・放課後や授業のない日も積極的に学習・実習・活動する学生の姿が多くみられた。 ・文部科学省委託事業参画や産業団体との交流で教員自身が企業や県外の専門学校とのネットワークを拡幅、情報交換の場も増えている。 ・学生会を組織。学園祭・文化祭、スポーツ大会、町内清掃活動等の企画・運営、管理を通じて学生相互の絆を深めている。 ・火災・地震を想定した危機管理マニュアルを整備。また年2回の避難訓練を行い、防災意識を高めると共に、万が一の発災に備えている。 ・運動関係、文化系とも部活動を充実させた。体力向上、友人の輪の拡大、チームワークの重要性の実体験、コミュニケーション力向上等に寄与している。 ・劇団四季の「アンデルセン」公演を観劇。映像・音響分野を目指す学生たちが日本最高峰の演劇を目の当たりにすることで、演出効果、舞台照明・音響装置等、多岐に亘って直接的に学ぶことに加え、心を豊かにし、日頃のストレス解消にもつながっている。 ・体調不良学生に対してはSNS等を活用し、即時対応・支援・指導を行っている。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻理由の殆どが体調不良であるため、単純に時間厳守を指導するだけでなく、体調管理に関する指導を行う。 ・出欠席管理システムの構築、生活支援のためのグループウェアを導入し、今以上に教員間での情報共有を進める。スケジュール管理においては学生が容易にチェックできるように便宜を図る。 ・人手不足を背景とする「企業の採用活動前倒し」に対応した学生指導の実施。 ・企業の「学内説明会・選考会開催」申出と学生の要望とのマッチング ・キャリア開発の重視点の移行 [「マッチング・就職支援」 → 「キャリアの自律」(環境の変化に対して自律的に適応する能力。生き抜く力)] を踏まえたキャリア教育を実施する。 ・「ジョブ・カード<学卒者等用>」活用の定着を図る(進路-学生-学科)。 ・「無料職業紹介事業関係業務取扱要領」等の改正に対応した業務を推進。 ・就職活動関連イベント情報を集約し、SNS等で早期に周知する。 ・ネットに依存しがちな就職活動を「リアル」かつ積極的に取り組めるように指導する。 ・就職活動に向けた外部イベントに全ての学生が積極的参加できるよう指導する。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・求人活動は県外大手企業が前倒しで動いており、地元企業は焦っている。しかし

	<p>学生の就職活動支援は焦らせることなく、学生個々の能力の程度に合わせて活動時期を考えさせるとよい。5月～6月でも十分求人がある。企業の動きに翻弄されないようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業以外の活動、いろいろな学生とコミュニケーションを図り、学生の和を広げる活動を大いにさせたい。 ・体調不良等について、体調管理も仕事のうちであることを学生のうちにしっかりと理解させてほしい。 ・既に取り組まれているが、改めて「報告・連絡・相談」の重要性を教えてほしい。SNSが発達した環境下で育った学生達に、しっかり報告できるよう指導をお願いしたい。
7. 管理・運営	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・大幅な教室変更により実習設備、機材、部品等の移動を要したが、事前の管理・整備が功を奏し、移動後もスムーズに実習授業が行えている。 ・保管期限を過ぎた書類について、専門業者に委託し、安全に廃棄処分した。 ・セキュリティソフトウェアのアカウントを更新した。 ・平成29年5月末から施行された改正個人情報保護法について教職員全員に周知・徹底し、遵守している。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法を遵守について、引き続き徹底する。 ・教室及び共用部分について、日頃から整理整頓、清潔を保つ。定期的なチェックを実施し、不要物については速やかに処分する。 ・セキュリティソフトウェア更新（継続）。 ・教室移動等に伴い、多くの備品を移動または廃棄したので、備品台帳との整合性を確実なものとする。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・改正個人情報保護法の施行で、企業でも対応するためのプロジェクトを立ち上げて対処している。教育機関にも対策の強化をお願いしたい。

以上